

●和銅錢之權記より一部抜粋 解説文

思ふに秩父和通は、此の錢のなる事、うたがひ
なしとて、地を掘ける。里人を呼びて、僧都物語り
せられけるよう、此人の形初めよりあやしみ思
へり。今是を案ずるに、昔本朝人王四十三代元明
天皇の御宇七月尔武州秩父の郡より始め
て銅を貢する。その時の都は、津の国難波の宮尔
おはしませり。是によりて慶運五年を改め
て和銅元年と改元せり。銅をもって錢を鑄
させらるる。されば、今此、和銅通宝の古錢はその時
の錢なるべし。帽子の外円く、内方なるは、此錢の
形ちなり。青色のひたたれは、同のさびならん。五
銖の重きは、錢の重さあらわして、和通と名のり
しは、和銅通宝の略せる名なるべし。秩父の者
といひしは、元銅の出はじめす所也。都に登り諸
国あまくめぐり見たるといひけるも、諸国尔つかは
れ渡られし事なるべし。夫れ錢の状（かた）ちは、外の円き
は、天にかたどり、穴の方なるは、地にかたどり、表裏
は、陰陽をかたとれり。文字の數四つは、四方に
かたどり、其の年号をあらわして天下に賑わ須
宝とす。錢は、これ足りなくして遠く走り、翅（つばさ）な
くして高く上がる顔くせ悪しき者も錢に・・・